

「広島市スポーツ振興計画」に掲げた推進施策の主な取組状況について(平成25年度)

【基本方針 1】

地域におけるスポーツ・レクリエーション活動の振興

【施策のくくり】

市民が気軽にスポーツに親しむことのできる機会の提供と環境づくり

＜主な取組＞

- 各区スポーツセンターなどで、各種スポーツ教室やスポーツ相談、スポーツイベントを開催するとともに、広島市のホームページやスポーツ協会のホームページ・広報紙などを通じて、スポーツ施設やスポーツイベントについての情報提供を行った。※()は前年比

スポーツスクール事業	【23種目(0)、351教室(▲13)、参加者延べ58,580人(▲2,544)】
スポーツ体験事業	【36種目(3)、202回(22)、参加者1,889人(340)】
スポーツ活動促進事業	【95事業(▲3)、2,553回(▲73)、参加者36,927人(▲2,888)】
スポーツ相談事業	【91事業(9)、549回(170)、参加者41,715人(▲10,792)】
スポーツイベント事業	【89事業(▲6)、117回(16)、24,191人(▲3,456)】

- 平成24年度に実施した総合型地域スポーツクラブ活動状況調査結果及び学区体育協会調査結果を踏まえ、スポーツ協会との会議を開催し、広島市の風土に適した総合型地域スポーツクラブの設立に向けた仕組みづくりについて検討を行った。平成26年度は、関係者による会議において、具体的な取組内容について協議することとしている。
- 平成24年度に実施したスポーツや運動に関するアンケート調査結果等踏まえ、スポーツ協会との会議を開催し、利用者ニーズに応じた多彩で魅力のあるスポーツ教室や体験教室に向けた取組内容について検討を行った。平成26年度以降は、一定の事業効果が上がるよう、事業の拡充を図ることとしている。

健康づくり・体力づくりに向けたスポーツの振興

＜主な取組＞

- 子どもから高齢者までの健康づくり・体力づくりのため、親子で楽しむスポーツ教室やメタボリックシンドローム対策支援事業などを実施するとともに、各区スポーツセンターにおいて、広島市医師会と連携したスポーツドクター医事相談などを行った。※()は前年比

メタボリックシンドローム対策支援事業	【参加者数 77人(27)】
アクティブシニア対策支援事業	【参加者数 80人(▲24)】
スポーツドクター医事相談	【8回(▲5)、23人(▲23)】

- 平成24年度に実施した会議の協議結果を踏まえ、スポーツ協会等との会議を開催し、民間スポーツクラブの利活用の必要性について検討を行った。平成26年度は、民間スポーツクラブの有資格指導者の派遣依頼実績等の情報を各区スポーツセンター間で共有を図ることとしている。
- 広報ひろしま「市民と市政」3月15日号で、特集「春から始めるスポーツライフ」と題し、身近で気軽に始められるスポーツを紹介するとともに、「週1スポーツ」実施の効果などについて周知した。

障害者のスポーツ・レクリエーション活動の促進

＜主な取組＞

- 障害者スポーツ大会や健康づくり教室を実施するとともに、心身障害者福祉センターにおいて、多様なスポーツ教室を実施した。 ※()は前年比
 - ・障害者スポーツ大会
 - 種 目：陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク、ボウリング、サッカー
 - 参加者：延べ1,380人(560)
 - ・健康づくり教室 224回(0)
- 関係者(障害福祉課、障害者スポーツ協会等)との会議を開催し、障害者がスポーツに親しみやすい環境づくりについて検討を行った。

地域における子どものスポーツ活動の促進

＜主な取組＞

- 広島市スポーツ少年団及び広島市小学生体育連盟の事業助成を実施した。 ※()は前年比
 - ＜スポーツ少年団＞
 - スポーツ少年団交流事業
 - ・スポーツ少年団競技別交歓会の実施
 - 【17競技(0)、34交歓会(0)、参加者16,657人(▲460)】
 - ・広島市スポーツ少年団大会の実施
 - 【14競技(0)、14交歓会(0)、参加者11,220人(39)】
 - 国際・国内スポーツ交流事業
 - ・第40回日独スポーツ少年団同時交流等 【6件(▲2)、74人(▲114)】
 - ＜小学生体育連盟＞
 - 補助金交付
 - 市小学生スポーツ交歓大会開催
- 平成24年度に実施した会議の協議結果を踏まえ、スポーツ協会等との会議を開催し、地域スポーツ振興担当コーディネーターが、子どもを対象に行う地域イベントや事業等への効果的な支援策について検討を行った。平成26年度は、児童館で行う子どものスポーツ活動への支援の充実に向けた広報活動などを行うこととしている。

地域コミュニティの活性化や国際交流の推進に向けたスポーツの振興

＜主な取組＞

- 地域スポーツ振興担当コーディネーターが地域に出向き、地域のスポーツ活動の促進に向けた指導・助言を実施するとともに、市民レベルのスポーツ・レクリエーションの祭典として、スポーツ・レクリエーションフェスティバルや区民スポーツ大会を実施した。 ※()は前年比
 - スポーツ・レクリエーションフェスティバル 【10月13日 参加者 61,005人(▲9,169)】
 - 区民スポーツ大会 【5月 参加者延べ 14,318人(▲192)】
- 平成24年度に実施した会議での協議結果や意見聴取等で把握した現状や課題を踏まえ、スポーツ協会等との会議等を開催し、地域団体や関係機関と連携した地域の特色を生かした事業の実施について検討を行った。平成26年度は、関係者による会議において、具体的な取組内容について協議することとしている。

スポーツ・レクリエーション活動を支える組織や人材の育成

＜主な取組＞

- 学区体育協会が行う地域スポーツ振興事業に対し、補助金を交付した。また、スポーツ推進委員を小学校区に配置し、地域においてスポーツに関する指導・助言等を行うとともに、スポーツ推進委員の研究大会や研修等を実施した。 ※()は前年比

スポーツ推進委員 【平成25年度末現在 383人(4)】
 スポーツ推進委員研究大会 【12月14日 参加者 219人(▲ 31)】
 スポーツ推進委員リーダー研修等 【延べ18回(6) 参加者 665人(▲ 77)】

- 現状の問題点等を把握するため、学区体育協会へのアンケート調査を実施した。(別添資料1)
- 昨年度実施したアンケートの結果等を踏まえ、スポーツ推進委員協議会と協議を行い、スポーツ推進委員の定数確保のため「広島市スポーツ推進委員推薦要領」の見直しを行った。
- スポーツ推進委員の活動状況を広島市ホームページに掲載し、PRを行った。

スポーツ・レクリエーション活動の場の整備・充実

＜主な取組＞

- 各スポーツ施設について、危険の程度などにより優先順位を見極め、計画的な改修等を実施した。また、学校のグラウンドや体育館を、地域住民のスポーツ活動等の場として開放する「学校体育施設開放事業」を実施した。 ※()は前年比

開放校 小学校 140校 (0)
 中学校 60校 (0)
 高等学校 1校 (0)

- スポーツ施設の利用料金について、高齢者減免制度の見直しを行い、これまでの全額減免から約半額減免(小人料金相当額を徴収)に変更した。(7月実施、別添資料2)
- 少年硬式野球を行うことができる施設(仮称:岡田運動広場)の土地造成に係る用地測量等を実施した。

【基本方針 2】

学校における体育・スポーツの充実

【施策のくくり】

子どもの体力向上等に向けた運動・スポーツ活動の促進

<主な取組>

- 小学校における取組として、体力が向上した児童に対する体力アップ認定証、体力優秀賞、努力賞の交付、各学校での長なわ跳びの取組である体力づくりチャレンジの実施とともに、体育科の授業改善を推進する体力向上推進校を指定した。 ※()は前年比

体力アップ認定証	【交付児童数 18,346人(▲352)】
体力優秀賞	【交付児童数 2,285人(▲279)】
努力賞	【交付児童数 11,661人(1,685)】
体力づくりチャレンジ	【参加チーム数 延べ459チーム(▲34)】
体力向上推進校	【指定校数 5校(1)】

- 中学校における取組として、体力が向上した生徒に対する体力優秀賞の交付、中学校体育大会の開催及び県大会以上の大会への派遣補助を行うとともに、保健体育科の授業改善を推進する体力向上推進校を指定した。 ※()は前年比

体力優秀賞	【交付生徒数 2,204人(361)】
中学校体育大会	【参加生徒数 延べ33,844人(▲425)】
大会派遣補助	【補助対象生徒数 延べ2,034人(534)】
体力向上推進校	【指定校数 3校(0)】

- 教員の体育指導の指導力向上に向けた研修会等を開催した。 ※()は前年比

小学校体育実技研修会	【11月15日 参加者数131名(▲8)】
体力づくり講演会	【3月4日 参加者数232人(▲13)】

- 中・高校生の多様なニーズに対応するとともに、運動部の顧問教諭の指導力の向上を図るため、専門的技術指導力を備えた地域のスポーツ経験者を各学校へ派遣した。
※()は前年比

中学校運動部活動活性化支援事業	【中学校への派遣人数 延べ64人(▲2)】
運動部活動指導者招へい事業	【高等学校への派遣人数 7人(0)】

- 学校にプロの選手や企業の一流選手等を招へいするなど、児童生徒に国内のトップレベルのプレーにふれる機会を提供した。 ※()は前年比

指導者招へい 【校数 85校(▲20)】

学校体育施設の整備・充実

<主な取組>

- グラウンドや屋内運動場の改修を行い、学校体育施設を整備した。 ※()は前年比

グラウンド改修	【校数 3校(▲1)】
屋内運動場改修	【校数 9校(2)】

【基本方針 3】

競技力の向上

【施策のくくり】

ジュニア選手の育成・強化

<主な取組>

- 国民体育大会を目指すジュニア選手を対象とした練習会等の育成事業を実施した。また、全国大会等で上位に入賞する選手の育成を目指し、ジュニア選手を対象として実施される合宿や遠征、練習会に対して補助を行う強化選手育成事業を実施した。※()は前年比

国民体育大会等を目指すジュニア選手育成事業【7競技(0)、参加者215人(3)】
強化指定選手育成事業【29競技(0)、参加者1,440人(▲86)】

- ジュニア選手を指導する指導者が一堂に会し、情報の共有化を図る場として「スポーツ指導者シンポジウム」を開催した。(別添資料3) ※()は前年比

8月31日開催 参加者 190人(59)

選手強化に向けたサポート体制の構築

<主な取組>

- 競技別指導者養成講習会事業を実施するとともに、指定管理者と連携し、休館日や開館時間外におけるスポーツセンター等の利用調整や職員配置などにより受入体制を強化した。※()は前年比

競技別指導者養成講習会事業【20競技(0)、参加者796人(▲12)】

- メディカルチェックを受診したジュニア選手に関わるスポーツ指導者を対象に、医師、トレーナー、栄養士が診断結果のフィードバックを行った。

ジュニア選手指導者へのメディカルサポート事業(新規)【7競技、参加者10人】

- ジュニア選手を指導する指導者が一堂に会し、情報の共有化を図る場として「スポーツ指導者シンポジウム」を開催した。(別添資料3) ※()は前年比 【再掲】

8月31日開催 参加者 190人(59)

【基本方針 4】

まちの活力創出に向けたスポーツの振興

【施策のくくり】

国際的・全国的なスポーツ大会等の開催・誘致等

＜主な取組＞

- 関係機関や競技団体と連携し、国際的・全国的なスポーツ大会を誘致・開催した。

7月8日 マツダスタジアムで日米大学野球選手権大会を開催

- 広島開催が定着している国際大会、全国大会に対し補助金を交付した。

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会
ヒロシマ国際ハンドボール大会
織田幹雄記念陸上競技大会
ひろしま国際平和マラソン
アジアカップひろしま国際ソフトテニス大会

トップス広島等との連携によるプロスポーツ・企業スポーツ等の振興

＜主な取組＞

- トップス広島情報コーナーの設置などスポーツセンターを拠点とした「トップススポーツチーム応援事業」を実施するとともに、学校や地域スポーツ団体と連携し、トップス広島に加盟している各クラブチーム等を活用したスポーツ教室、クリニック等を行う「トップススポーツチーム交流事業」を実施した。また、プロスポーツチーム等が実施するイベント情報を広島市ホームページやスポーツ協会ホームページに掲載しPRを行った。 ※()は前年比

トップススポーツチーム交流事業 【7事業(1)、13回(3)、参加者477人(230)】

- カープ・サンフレッチェの県・市職員合同応援など、トップス広島に加盟するスポーツチームを支援した。 ※()は前年比

サンフレッチェ合同応援 【7月10日 参加者 255人(9)】
カープ合同応援 【7月17日 参加者 476人(▲213)】

- トップス広島との連携施策の効果的な実施方法として、全日本女子社会人ホッケー選手権大会に合わせて地元中学生の参加による運営ボランティア事業を実施した。

【実施日 9月7日・8日 参加者 20人】

- サンフレッチェ広島の応援機運を醸成するため、アストラムラインの列車車体にサンフレッチェ広島のエンブレムやスローガン等をラッピングした「サンフレッチェ・応援トラム」の運行を共催した。(別添資料4)

- 県、市、商工会議所、県サッカー協会の4者でサッカースタジアム検討協議会を立ち上げ、スタジアムの規模、建設場所、管理運営方法、事業スキーム、事業収支、類似施設との棲み分けなどのサッカースタジアムの整備に係る課題への解決策が議論され、中間とりまとめが行われた。今後も引き続き議論を深め、平成26年秋を目途に最終取りまとめが行われる予定である。